



2021年10月27日

各位

上場会社名 さくらインターネット株式会社
代表者 代表取締役社長 田中 邦裕
(コード番号 3778)
問合せ先責任者 取締役 川田 正貴
(TEL 06-6476-8790)

第2四半期業績予想と実績値との差異、通期業績予想の修正（上方修正）

及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2021年4月27日に公表した2022年3月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異、2022年3月期通期連結業績予想の上方修正及び2022年3月期第2四半期連結会計期間における特別損失の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 第2四半期連結業績予想と実績値との差異について

(1) 2022年3月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異（2021年4月1日～2021年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,250	△180	△260	△200	△5.48
実績値(B)	9,662	197	129	△69	△1.90
差異(B-A)	412	377	389	130	
増減率(%)	4.5	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	10,695	601	516	326	8.96

(2) 差異の理由

売上高につきましては、クラウドビジネスへの集中を図るなかでクラウドサービスが好調に推移したことや、物理基盤サービスが当初予想を上回ったこと等により、業績予想を412百万円上回りました。

利益面につきましては、売上高の増加に加え、経営資源をクラウドに集中させていく中で、コスト最適化を想定以上に進められたこと等から、営業利益は業績予想を377百万円、経常利益は業績予想を389百万円、それぞれ上回りました。

また、後述のとおり本社移転に伴う特別損失を計上いたしましたが、売上高の増加やコスト最適化等により親会社株主に帰属する四半期純利益は130百万円業績予想を上回ることができました。

2. 2022年3月期通期業績予想の修正について

(1) 2022年3月期通期連結業績予想の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 19,500	百万円 400	百万円 250	百万円 140	円 銭 3.84
今回発表予想(B)	19,700	640	530	190	5.21
差異(B-A)	200	240	280	50	
増減率(%)	1.0	60.0	112.0	35.7	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	22,168	1,372	1,099	758	20.79

(2) 修正の理由

下期は、想定していた政府衛星データサービスやIoTサービス等の案件獲得時期の遅れなどが見込まれることから関連する売上及び利益見通しを一部見直すものの、クラウドサービス、物理基盤サービス、子会社の売上が概ね順調に推移する見込みです。

通期では、上期の順調な進捗と上述の下期の一部見直しを反映し、売上高は当初予想から200百万円上方修正し19,700百万円、営業利益は240百万円上方修正し640百万円、経常利益は280百万円上方修正し530百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は50百万円上方修正し190百万円となる見込みです。

3. 特別損失の計上について

当社では、会社が「働きやすい」環境を提供し、その中で社員個人が「働きがい」を追求できることを理想として、リモートワークの推奨など働き方の多様性を尊重するさまざまな取り組みを実施してまいりました。今般の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、新たな働き方に対応しつつ、将来的に社内外の交流をさらに活性化させる場への進化を目的として、2021年10月1日付で本社を移転いたしました。

本移転に伴い、特別損失として減損損失142百万円、本社移転損失引当金繰入額（移転から解約までの旧大阪本社賃料を引当て）85百万円、固定資産除却損39百万円等を計上することといたしました。

なお、本移転によるオフィス賃料、減価償却費の削減効果により、来期以降の収益増加に貢献するものと見込んでおります。

以上